

3-3 環境配慮・防災の基本的な考え方

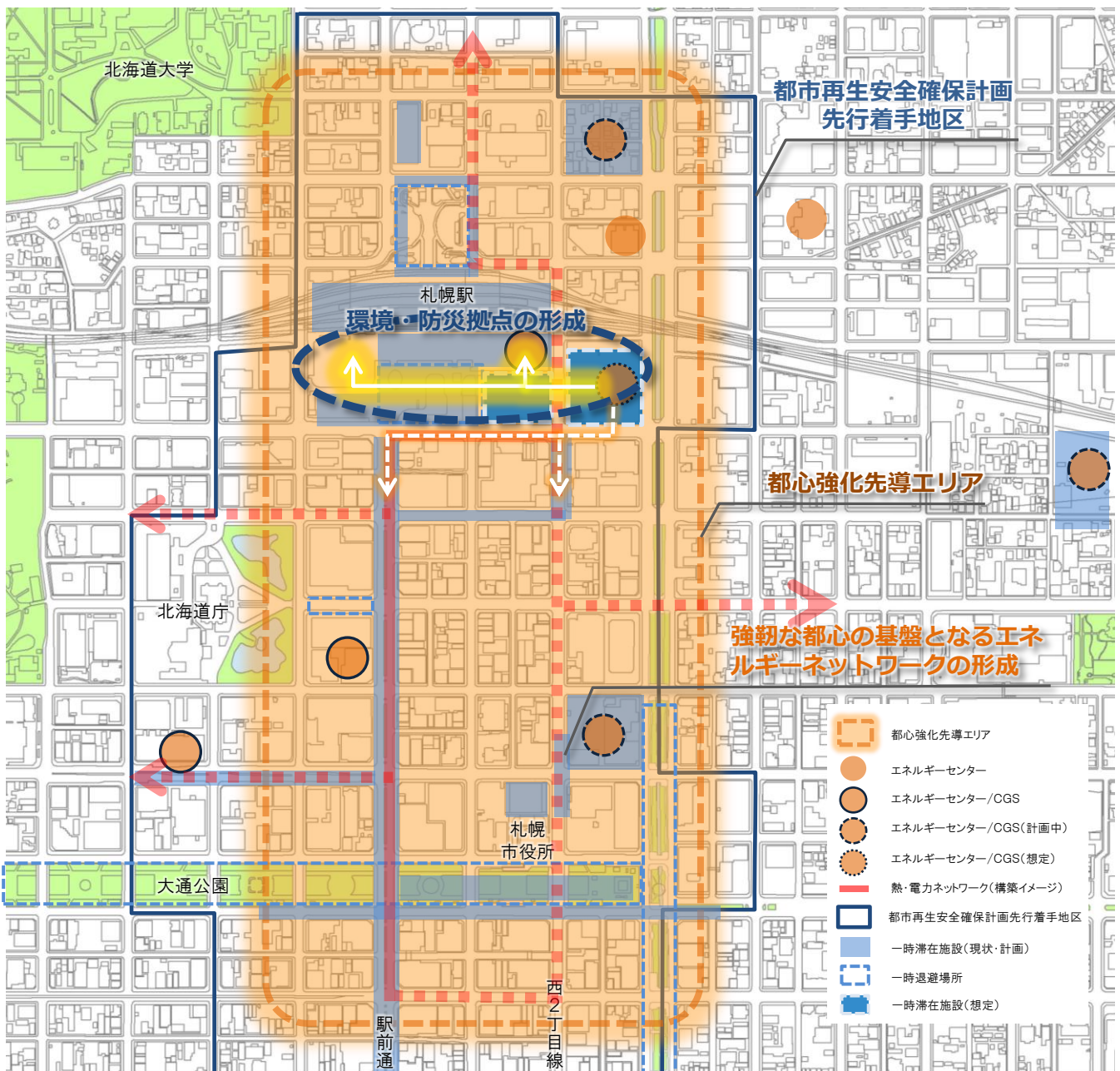
<取組の目標>

環境首都・札幌をリードする環境・防災拠点の形成

札幌駅を中心とした都心エリアでは地域冷暖房ネットワークの整備や雪冷熱の活用など、効率的なエネルギー供給やCO2削減に向けた先進的な取組を実践してきました。

今後、札幌駅交流拠点先導街区は、世界をリードする環境首都・札幌のモデル地区として、周辺地区との連携も視野に入れた新たな高効率プラントの整備や最先端の環境配慮型建築を整備するとともに、環境首都札幌をPRする拠点として先進的な取組を国内外へ発信していくことを目指します。

また、災害が少ない地域特性を活かし、分散型電源の確保や災害時の一時避難対応など、ビジネスパーソン・観光客から選ばれる都市としての更なる機能強化を目指します。



<取組の方針>

方針1：都心の面的エネルギー利用の強化・拡大に資するエネルギー拠点の整備

- 都心強化先導エリアの建物更新やエネルギーネットワークを構築するためのプラントスペースの確保と、高効率な熱・電力を供給するCGS※の導入
- 都心強化先導エリアの一層の環境負荷低減を目指したエネルギーネットワークへの接続
- 積雪寒冷地の特性を活かした再生可能エネルギーの積極的活用

※CGS:コージェネレーションシステム。発電時の排熱などを用いて、電力と熱を供給し、エネルギーの効率的利用をはかるシステム。



モニュメントとなるエネルギープラント
(イズリントン Bunhill Energy Center)

方針2：先進的な環境配慮型建築のショーケースとしての整備

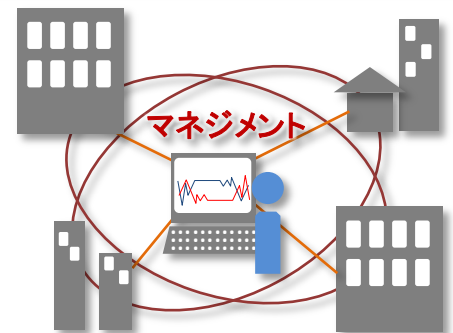
- 環境負荷が少なく、快適な室内環境を形成する最先端の環境配慮型建築の整備
- 先進的な環境技術が感じられ、環境首都のPRとなる建築デザイン
- 札幌市の環境に関わる取組の見える化



環境政策のPR展示
(コペンハーゲン House of Green)

方針3：エリア エネルギー マネジメントシステムの活用

- 都心強化先導エリアのエネルギー管理による効率的なエネルギー供給・利用マネジメントシステムの導入
- 複合用途の導入によるエネルギー利用の平準化



<都心強化先導エリアについて>

「第2次都心まちづくり計画」において、国内外からヒト・モノ・投資を呼び込み、北海道・札幌の経済発展をけん引する都心まちづくりを先導するエリアとして位置づけています。

都心強化先導エリアにおいては、先導的に環境負荷の低減とBLCP※強化の取組などを進め、都心地区の自立機能や付加価値を高めることを目指します。

※BLCP (Business and Living Continuity Plan) : 事業・生活継続計画

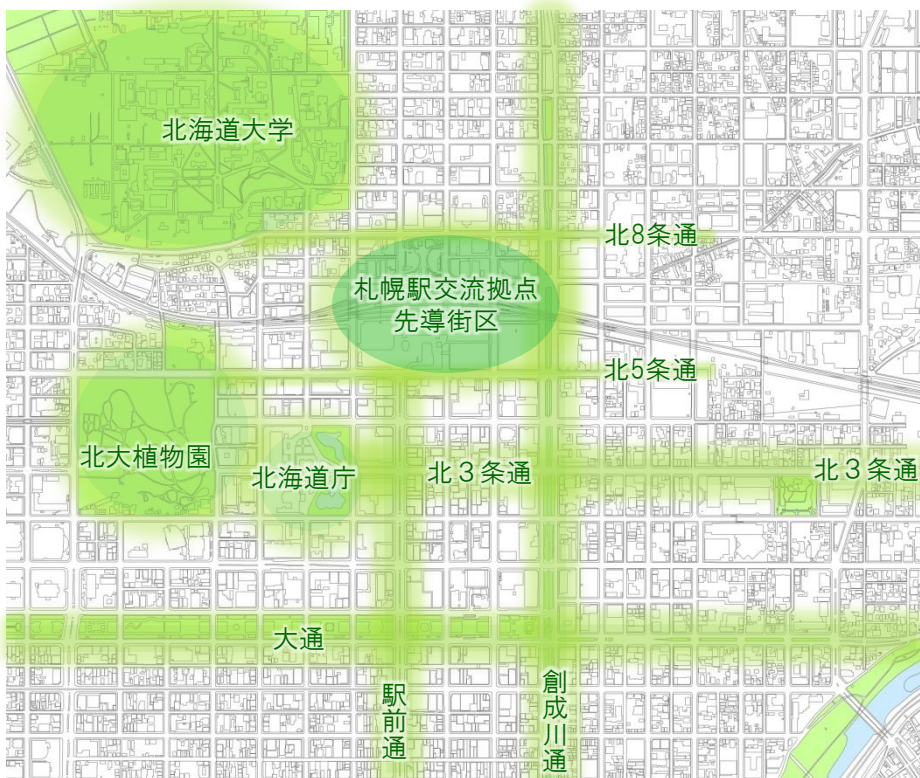
方針4：環境首都・札幌の象徴となる潤いあふれる緑化空間の形成

- 都心のみどりのネットワークをつなぐ、みどり豊かな空間の形成
- 既存の南口広場や創成川通の豊富な緑化空間の継承・拡大
- 広場や沿道の街路空間、屋上など多様な緑化空間の整備



豊かな緑と水で潤いある街区を形成
(大阪 グランフロント大阪)

<都心のみどりのネットワークについて>



街路樹等により豊かな沿道緑化を形成する都心の骨格軸と大規模な緑化空間を形成するみどりの核をつなぎ、都心のみどりのネットワークの形成を図ります。

(整備目的)

- 潤いある街並みの形成
- 環境負荷の低減
- 環境首都・札幌のPR

方針5：帰宅困難者の受入空間や情報提供機能の導入による防災拠点機能の強化

- エネルギー供給、給水、物資提供が可能で、外国人や多くの観光客にも対応した避難・滞在スペースの確保
- デジタルサイネージ等による情報提供機能
- バス等による鉄道代替輸送を想定したバスターミナル空間の活用の検討



一時退避場所として活用可能な
避難・滞在スペースの確保

方針6：自立分散型電源の確保による事業継続性の高い拠点整備

- 自立分散型電源を確保し、災害に強く、事業継続性の高い街区の形成
- 周辺施設とのエネルギー融通により、事業継続性の高い都心強化先導エリアを形成する拠点整備



方針7：周辺地区、行政との災害時連携体制の構築

- 防災協働社会の実現に向けた市民、企業、行政等との連携体制の構築とエリアマネジメントへの波及
- 官民協働の取組により、防災性の向上に寄与する都市空間ネットワークの充実（退避経路や一時滞在施設となる地下歩行ネットワークとの連携等）

